

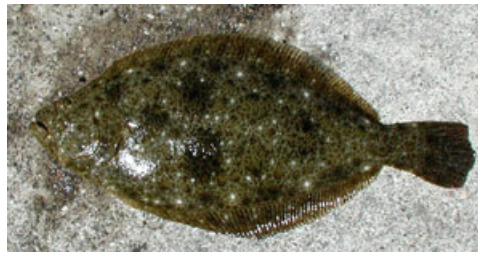
平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ヒラメ

学名 *Paralichthys olivaceus*

系群名 太平洋南部系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特徴

- 寿命： 15歳（本系群では詳細は不明）
成熟開始年齢： 3歳（1歳で成熟するとの報告もあるが、本系群では詳細は不明）
産卵期・産卵場： 晩秋～初春（本系群では詳細は不明）
索餌期・索餌場： 不明
食性： ふ化仔魚は動物プランクトン、着底稚魚はアミ類、稚魚以降は魚類
捕食者： 魚類、甲殻類（本系群では詳細は不明）

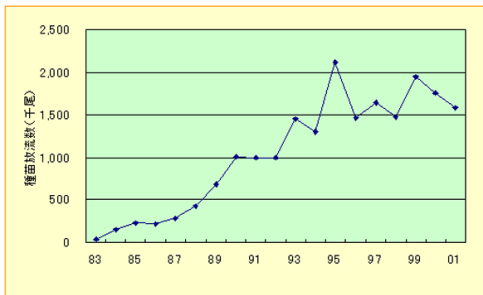
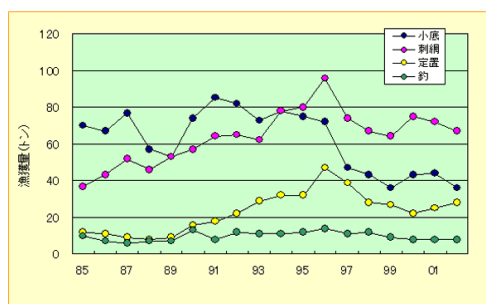
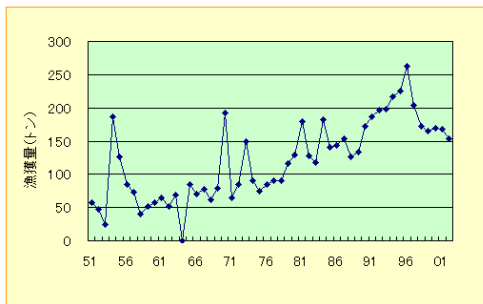


漁業の特徴

和歌山県を東限、鹿児島県大隅半島を西限とする太平洋南部海域でのヒラメ漁業は、漁獲量は少ないが、主に刺網、小型底びき網、定置網、釣等によって行われており、漁獲量はこの順番に多い。漁獲対象は1～2歳魚が主体であり、0歳魚の漁獲もある。種苗放流が積極的に行われている。

漁獲の動向

漁獲量の長期的傾向は、1951～2001年で57～169トンと大きく変動している。近年は1996年の263トンをピークに減少傾向に転じ、中水準へと移行した。2002年は153トンとなり、2001年の169トンと同水準で、1998年（172トン）以降は、横ばい状態にある。

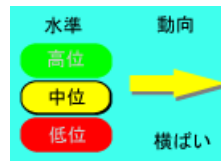


資源評価法

資源量を推定するために必要な地域集団の分布範囲が特定できないことと、各県における漁業種類別年齢別漁獲尾数等の資料不足等により、現状における資源量推定は不可能である。そこで、漁獲統計および水産試験場資料を用いて漁獲量を集計および解析することで資源評価を行った。

資源状態

ヒラメ太平洋南部系群の漁獲量は、大きな変動を伴いながら推移している。過去30年における漁獲量の最小値（74トン、1975年）～最大値（263トン、1996年）の幅を三分割すると、2002年の漁獲量（153トン）は中水準に属す。また、30年間の平均値は152トンであり、2002年の漁獲量とほぼ同じ値を示すことから、2002年の資源水準は中位であると判断される。1996年の漁獲量は263トンで1951年以降の最高値を記録した。1997～1998年に急激な減少がみられたが、それ以降は同じ水準で安定している。資源動向は横ばい傾向と判断される。



管理方策

ヒラメ太平洋南部系群は中水準の横ばい傾向にあると判断されるが、漁獲量が比較的高いレベルにあると思われる。そこで、管理目標は現状の漁獲量の維持とする。ただし未成熟魚の保護や種苗放流効果に関する調査が必要であると思われる。漁獲量が安定している過去5年間の平均漁獲量をABClimitとする。また現状の中水準を維持するために安全率を考慮してABCtargetをABClimitの8割とした。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	166トン	Cave5-yr	-	-
A B C target	133トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲量は1951年から大きな変動幅を持ちながら緩やかに増加
- 漁獲量は1996年に過去最高になるが、1997年には急激に減少
- 漁獲量は1998年以降は横ばい
- 資源水準は中位で、横ばい状態にある

資源管理方策のまとめ

- 現在の漁獲水準を維持する
- 若齢魚の保護に関する考慮が必要

資源評価は毎年更新されます。